

2019年度第3回中山競馬特別レース名解説

<第1日>

○ ペガサスジャンプステークス

本競走は、平成13年に創設された障害オープン競走。『中山グランドジャンプ』のステップ競走として位置付けられている。

ペガサス(Pegasus)は、ギリシャ神話に登場する有翼の馬。英雄ベレロフォンの愛馬として怪獣キマイラ退治で活躍したとされる。

○ ミモザ賞

ミモザ(Mimosa)は、マメ科オジギソウ属の多年草。今日ではマメ科アカシア属の常緑高木の俗称として用いられることも多い。花は黄色で球状に集まって咲く。花言葉は「豊かな感受性」「秘密の愛」。

○ 春風ステークス

春風(はるかぜ)は、春に東や南の方角から吹く風のこと。東風(こち)とも呼ばれる。

○ 日経賞(GⅡ)

本競走は、昭和28年に『日本経済賞』の名称で創設された重賞競走。当初は距離3200mで実施されていたが、その後33年に2600mとなり、42年から現行の2500mへと短縮された。なお、第1着馬には同年の天皇賞(春)への優先出走権が与えられる。

日本経済新聞社は、東京・大阪に本社を置く新聞社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第2日>

○ 両国特別

両国(りょうごく)は、東京都墨田区南西部、隅田川東岸の地名。隅田川が武蔵と下総の両国の境をなしたことに由来する。かつては両国橋の東西兩岸の地域を指していたが、橋の東側に両国国技館や両国駅などが設置されたことで、次第に東両国のみを両国と呼ぶようになった。

○ 美浦ステークス

美浦(みほ)は、茨城県南部、稲敷郡北部の霞ヶ浦に面した村。湖岸の低湿地帯には水田が広がり、低い台地には畑地が多い。霞ヶ浦に面した安中台地にある陸平貝塚は、明治12年に日本人の手で初めて発掘調査された縄文時代の遺跡である。

なお、同村にはJRAの競走馬調教施設である美浦トレーニング・センターがある。

○ マーチステークス（GⅢ）

本競走は、平成6年に創設された重賞競走。創設当初より1800mのハンデキャップ戦で実施されている。

マーチ（March）は、3月を意味する英語。古代ローマの暦では農耕が始まる3月が1年の始まりであったとされ、ローマ神話における農耕の神マルスに由来するとされる。

<第3日>

○ 山吹賞

山吹（やまぶき）は、バラ科の落葉低木。山間の湿地に多く群生する。晩春に黄色の五弁花を開き、暗褐色の実をつける。花言葉は「気品」「崇高」。

○ 千葉日報杯

千葉日报社は、千葉県千葉市に本社を置く新聞社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

○ ダービー卿チャレンジトロフィー（GⅢ）

本競走は、昭和44年にイギリスからエプソムダービー9勝などの記録を持つレスター・ピゴット騎手ら3名を招待して『英国騎手招待競走』を開催した際、第18代ダービー卿からトロフィーの寄贈を受けたことを記念して創設された重賞競走。当初は1800mの別定重量戦で実施されていた。幾度かの変更を経て、平成8年には距離が1600mに、14年にはハンデキャップ戦に変更となり現在に至る。

<第4日>

○ 安房特別

安房（あわ）は、旧国名のひとつ。現在の千葉県南部を指す。戦国時代に里見氏が統一し、江戸時代に入り里見氏が改易されて以降は、天領・旗本領・小藩に分割統治された。明治4年の廃藩置県で木更津県となり、後に千葉県に編入された。

○ 伏竜ステークス

伏竜（ふくりゅう）は、水中に潜み昇天の機を待つ竜のこと。また、世間に知られていない優れた才分を持つ人物の雅称。中国の『三国志』には、諸葛亮孔明の別称として登場する。

○ 船橋ステークス

船橋（ふなばし）は、千葉県北西部の市。船橋大神宮の門前町と宿場町、漁村が結合して発展した。商工業が盛んで、京葉工業地域の一部を形成している。名は、川を渡る際に並んだ船を橋の代わりにしていたことに由来するとされる。

なお、同市は中山競馬場の所在地でもある。

<第5日>

○ 野島崎特別

野島崎（のじまざき）は、千葉県の房総半島最南端にある岬。元禄 16 年（1703）の大地震で沖合の島が隆起して岬になったと言われている。

○ 湾岸ステークス

湾岸（わんがん）は、湾の沿岸のこと。千葉県富津市と神奈川県横須賀市を結ぶ東京湾岸道路や、湾岸千葉インターチェンジなどの名称に用いられている。

○ ウオッカ追悼競走 ニュージーランドトロフィー（GⅡ） （NHKマイルカップトライアル）

本競走は、去る 4 月 1 日（月）に死亡したウオッカ号の生前の功績を称えて追悼競走として実施される。

同競走は、昭和 46 年にニュージーランドのベイオブプレッティレーシングクラブからカップの寄贈を受けて実施された『ベイオブプレッティレーシングクラブ賞グリーンステークス』を前身とする重賞競走。58 年に『ニュージーランドトロフィー4 歳ステークス』として重賞競走となった後、平成 8 年に『NHK マイルカップ』が創設されたことに伴い、同競走のトライアルレースとなった。なお、第 3 着までの馬には NHK マイルカップへの優先出走権が与えられる。

<第6日>

○ デイジー賞

デイジー（Daisy）は、キク科の多年草。和名は雛菊。花が長く咲き続けるため「長命菊」とも呼ばれる。ヨーロッパ西部の原産で、日本へは明治時代に伝わったと言われている。花言葉は「純潔」「無邪気」。

○ 隅田川特別

隅田川（すみだがわ）は、東京都北区の岩淵水門で荒川から分岐し、東京湾に注ぐ川。古くから多くの文芸作品に登場しており、滝廉太郎作曲の歌曲『花』には春の隅田川の情景が歌われている。

○ ウインズ後楽園開設70周年記念 春雷ステークス（L）

本競走は、ウインズ後楽園開設70周年を記念して実施される。

春雷（しゅんらい）は、春の初めに鳴り響く雷。その雷によって雨が降り、豊作となることから、大変めでたい雷とされてきた。また、雷に驚き、冬眠していた虫たちが目覚めるとされ、「虫出しの雷」とも呼ばれる。

<第7日>

○ 山藤賞

山藤（やまふじ）は、マメ科のつる性落葉低木。本州中部以西の山野に自生する。葉は卵形の小葉からなる羽状複葉。4～5月頃、紫色の蝶形の花が総状に垂れ下がって咲く。花言葉は「歓迎」「懐かしい思い出」。

○ 下総ステークス

下総（しもうさ）は、現在の千葉県北部と茨城県南部、埼玉県東端部に渡る旧国名。明治6年に、安房、上総と併せて千葉県と改称した。

○ 農林水産省賞典中山グランドジャンプ（J・G I）

本競走は、昭和9年に当時の中山競馬倶楽部理事長肥田金一郎氏が、東京競馬場の『東京優駿（日本ダービー）』に匹敵する中山競馬場の名物レースとして創設した『中山大障害』を前身とする競走。創設時の障害は現在より大きいものを使用しており、合計10回の飛越と坂路を6回上り下りするものであった。その後、幾度かの距離の変更を経て、47年秋からは創設時の4100mに戻された。創設時より春と秋の年2回実施されていたが、平成11年から春の競走名が『中山グランドジャンプ』に変更され、J・G Iに格付けされた。また、13年より距離が4250mへと延伸され現在に至る。

○ 利根川特別

利根川（とねがわ）は、群馬県北端の大水上山付近に源を発し、関東平野を北西から南東に貫流して千葉県の銚子で太平洋に注ぐ川。延長322km。流域は東京・千葉・埼玉・茨城・栃木・群馬・長野の1都6県にまたがり、その流域面積は16,840km²で日本一を誇る。

＜第8日＞

○ 袖ヶ浦特別

袖ヶ浦（そでがうら）は、千葉県中央部の市。東部は市原市、西部は木更津市、北部は東京湾にそれぞれ接している。昭和40年代以降、沿岸部に京葉工業地域が形成され、ここから電気・ガス・石油などの膨大なエネルギーが首都圏へと送られている。

○ 鹿野山特別

鹿野山（かのうざん）は、千葉県南部の山。君津市と富津市の境に位置する。標高379mで、山中には神野寺がある。山頂は平坦地が広く、東京湾の眺望に優れている。

○ 京葉ステークス（L）

京葉（けいよう）は、東京都と千葉県の東京湾岸地域を指す名称。この地域では千葉県浦安から市原経由で富津まで臨海工業地帯が形成されている。

○ 皐月賞（GI）

本競走は、イギリスのクラシックレース『2000ギニー』に範をとり、昭和14年に『横浜農林省賞典4歳呼馬競走』として創設された重賞競走。当初は、横浜競馬場（根岸競馬場）の距離1850mで実施されていたが、18年以降は東京競馬場へ移設された。24年に中山競馬場へ舞台を移したのを機に競走名が『皐月賞』とされ、25年には距離が2000mに延伸され現在に至る。

クラシック3冠競走（皐月賞・東京優駿・菊花賞）の第一関門となっており、その中でも「最も速い馬が勝つ」と言われている。なお、第5着までの馬には東京優駿（日本ダービー）への優先出走権が与えられる。

○ 春興ステークス

春興（しゅんきょう）は、春のおもしろみ、春の興趣のこと。春の季語。また、新年に句会、歌会を開き、そこで詠まれた句を印刷して知人間で贈答したもののこと。